

平成28年度 第1回「ともに考えよう まちづくりミーティング」

平成28年7月23日（土）18時30分～
金沢市消防局 2階 防災センター
野町、弥生、中村町、十一屋（校下）

(1) 市長あいさつ

【山野金沢市長】

皆さん、改めまして、こんばんは。

土曜日の夕方、なかなかお出かけしづらい時間にもかかわらず、たくさんの方にお越しいただきました。本当にありがとうございます。

実は、去年の年末ぐらいから町会連合会の役員の方には、3月に平成28年度の議会の予算を議会で認めていただきましたら、金沢市内を幾つかのブロックに分けて、私から直接、地域の皆さんに予算の説明をする場を設けたい、とお話をしていました。今年の年明けに環境審議会から、家庭ごみの有料化について、有料化そのものは必要だけでも、より丁寧な説明が必要だという答申をいただいたので、この4月、5月の2カ月間に金沢市内を9つのブロックに分けて、平成28年度予算の概要とあわせて、家庭ごみの有料化についての基本的な金沢市の考え方を各地域の各種団体の長の方にお越しただいて、いろいろと説明させていただき、また皆さんのご意見をお聞きしたところであります。

昨日、金沢市の校下婦人会の皆さんと色々なテーマ、今日も新聞に載っていましたが、色々なテーマで意見交換もさせていただきました。これは環境問題だけではなくて、広いテーマに渡ることです。

今日のまちづくりミーティングは、野町、弥生、中村町、十一屋の4校下、4地区の皆さんにお越しいただきました。まずはこの地域の課題について、いろんな意見交換をさせていただければと思います。

この後、事前にいただいた課題について、改めてご質問をいただき、私どもからお答えさせていただいて、それについていろんなご意見のやりとりをさせていただければと思います。

その後は、残った時間をできるだけ自由な形で、いろんな意見をお聞かせいただければと思います。

私は市長ではありますが、金沢市の細かい数字も含めて、全てを把握しているというものでもありませんので、今ここですぐお答えできるものもあれば、一度持ち帰って、担当部署と再度綿密に練ってお答えしなければいけないものもあるかと思いますが、どんな意見でもおっしゃっていただいて、意見交換をできればと思いますので、限られた時間ではありますが、どうぞよろしく申し上げます。

(2) 地域代表あいさつ

【中村町校下町会連合会 会長 大川 兼紀 氏】

ただいまご紹介いただきました中村町校下の町会連合会の大川でございます。

4地区の代表ということで、簡単にご挨拶をさせていただきたいと思います。

昨日、北陸地方も梅雨明けの様相ということで、今日は本当に暑い日でしたが、4地区から多数の方にご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。

それからまた、市長、市所管局長を初め、皆さん方にはこういう機会をつくっていただいたことに対して、厚く御礼を申し上げたいと思います。

さて、思い起こしますと、金沢市内の我々に4年に1度回ってくるわけですが、前回の平成24年の8月を思い出してみましたら、その時には野町小と弥生小の統合が話題となっていたということです。統合後の小学校については、弥生小学校の跡地がいいんじゃないかという方向性が初めて示されたのは、たしか平成24年の8月だと思っています。

それから、両校は平成26年に現在の泉小学校（旧野町小学校）で統合した入学式を行って、平成29年の4月には、弥生小学校の跡地に泉中学校と泉小学校の新校舎ができるというお話があったように覚えています。

もう1点。手前みそで、うちの校下のことになりますが、先月の新聞にも出ましたが、中村町小学校がコミュニティスクール事業の金沢市の唯一のモデル校として認定を受けたわけです。学校と地域が協働で児童たちの課題について検討して、9月の本実施に向けて色々と準備をしているところでございます。

今日は限られた時間でございますが、活発なご意見を出していただきまして、そして、従来は教室方式だったと思いますが、今回からは座席がテーブルスタイルになりまして、話しやすいようにと市の配慮もいただいていますので、最後まで活発なご意見をいただければと思っています。

(3) 地域課題の説明、課題に対する市の方針等の説明、討議

①泉小学校（旧野町小学校）の跡地活用について（野町）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

【野町町会連合会】

今回、うちの町会連合会から提案させていただいた小学校の旧跡地の問題、これについて、今、第一善隣館のお話がありました。ただ、この第一善隣館は、多分、皆さんもご承知かと思いますが、善隣館ができたいきさつがございます。野町の第一善隣館は金沢市内において一番初めにできた善隣館でありますし、これを設立した安藤さんという方が多額の私財を投げ打った形で、今の第一善隣館が成り立っています。

当初、野町小学校の建物の中に第一善隣館の前身の準備室等もありましたので、そういういきさつも踏まえて、できれば全身的な形でこの善隣館も含めての移転をお願いしたいと思っています。

また、この小学校の跡地問題で特に公共的な部分のお話がありました。活性化のあるまちなかということで、地元の金沢美術工芸大学とか、いろんな動きがされていまして、先日、新聞にも出ましたが、学生や新しい芸術家の作品展をする場所として利用等できないかというご提案もございました。

今、金沢市の補助金制度の中で、いろんな若手作家に補助金を出しています。ただ、この若手作家はほとんどが卒業された後、金沢に残る方はすごく少ないと思っています。ですから、若手の方が今後ずっと金沢に残っていけるように、施設を含めた形での跡地利用が考えられるとも思いますし、若手の芸術家の育成制度も踏まえて、ご検討を願えればと思っています。

また、交通の整備にも問題があるかと思っています。先日、まちなかのポートが寺町台の公園の中に1カ所新設されて、現在、町会の中では、にし茶屋の中と2カ所ございます。野町に関しては新幹線の開通以後、寺町台の重伝建地区も踏まえて、にし茶屋への観光客がかなり増えています。国交省後援の「美しい日本の歩きたくなるみち」500選に選定された「静音の小径」でも、今までにない人が横断しています。

金沢市や北陸鉄道のおかげで周遊バスの客ルートなど、いろんなことをされていますが、できれば観光客だけではなくて、地元の方の足を確保するような施策をお願いできな

いかと思っています。

というのは、小学校の跡地問題には関連しませんが、まちなかのスーパーがかなりなくなってきています。専光寺野田線にあったコジマストアは今、金沢市の駐車場になっています。

その他に東京ストアも廃業しました。現在、野町の中に残っているストアは、沼田町にあるひまわりチェーンで、それまではコンビニもなく、広小路交差点にやっとコンビニができました。野町の中では高齢化が進んでいて、車を所有していない方が買い物をするのにすごく不便な状態になっています。

中村町方面から来る長町ルートのみらっとバスは、野田専光寺線を上がって左折して片町方面に向かっています。できればここを右折して、野町の中を走ってから中村町のアピタへ向かってもらえると、利用客も増えるのではないのでしょうか。野町に住む方は結構、乳母車みたいなものを引いて買い物へ行くのですが、帰りの坂道が上れなくて、かなりの方がタクシーに乗ることもあるので、野町の活性化と交通網の整備も全部含めて検討をお願いできればと思います。

【山野金沢市長】

幾つも具体的なご提案をいただきまして、ありがとうございます。

第一善隣館のことですが、経緯も私なりに理解をしています。今改めて教えていただきました。

ただ、ご理解いただきたいのは、善隣館の事業を旧野町小学校の中へ持っていくのは、私はなかなか課題が大きいと思っています。しかし、第一善隣館の役割はすごく大切な役割だと思っていますので、その役割を地域の中でどんな形で生かしていくことができるか、協議の中で今一度議論させていただければと思っています。

交通網、まちなりのことも、まちなりは今細かい数字を持ち合わせていませんが、観光客も利用しますけれども、地域の方も結構利用されています。我々も観光客のためにまちなりを作ったというよりも、むしろ地域の方たちにも使ってほしいという思いで作らせていただきました。実際、データを見ても地域の方たちにご利用いただいています。今、寺町台にポートが一つできましたので、まずこの流れを見ながら、いろんなデータも見ながら、まちなりの充実ということも含め、今後どの場所に、どのようにやっていけばいいか、様子を見させていただければと思っています。

ふらっとバスを含めた交通の施策ですが、ふらっとバスのルートを変えらると、全体の時間が大きく変わってきますし、一部のエリアだけでなく、エリア全体を見直さなければいけないので、ここは課題だと思っています。

寺町台のポートができることで人の流れがどう変わるのか、まだ名称は決まっていますが、谷口先生の建築の魅力発信拠点を整備しているところでもありますので、その中でどう人の動きが変わるのかも見極めながら、今一度、議論させていただければと思います。

先般の議会において、喜多議員からご提案もいただきました。美大の学生の製作の場、発表の場というものを大切だと思っていますし、さっきの質問と少しちぐはぐになるかもしれませんが、交通の便がまちなかに近いこともあって、郊外よりも比較的充実している地域でもありますので、私はまちなかにおいて学生がいろんな形で活動するのは大切だと思っています。

野町、弥生小学校の統合、また今年度は材木町、味噌蔵町小学校が統合しまして、旧味噌蔵町小学校を兼六小学校として使っていますが、これも近いうちに移転する予定になっていますので、旧味噌蔵町小学校をどのように活用していくのか。旧野町小学校をどのように活用していくのか。まちなか全体の活性化という点も併せて、今のご提案もしっかりと受けとめて研究させていただければと思います。

すばらしい提案ですし、真剣に議論する値のあるテーマだと思っていますので、しっかりと受けとめさせていただきます。

②泉中の新校舎建設に合わせた「地域防災倉庫」の併設について（弥生）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

③高齢者が安心して住み続けられる“まちづくり”をめざして（中村町）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

④公営住宅が起因する問題について（十一屋）

「地域課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

【十一屋校下町会連合会】

十一屋校下の大桑地区、8カ国、20世帯。全体が300世帯ありますけど、20世帯が8カ国の方が外国世帯です。説明もなくパッと入れられてきますが、何をどう対応していいか、すごく困惑しています。

市営住宅課に問い合わせたら、彼らは英語が話せます、と言われましたが、私は残念ながら英語ができません。入れるだけではなく、しっかり大家としての自覚を持って対応してください。

ずっと思っていますが、外国の方々のお子さんはちゃんと日本語の勉強ができていますか。十一屋小学校ではそういう教室があると聞いたことがありません。こちらに教えてもらえないのはとても残念に思っています。

あと、金沢大学の教授にアクセスしましたが、留学生をあと800人ほど増やしたいということを知りました。そのうちで、留学生というのは大学生かと思ったら、入ってくる方は家族連れです。今、大桑の市営住宅の公園に来る人はアラブの方ばかりです。

この間もバングラデシュの事件の後に、ラマダン明けで御飯を食べるので集会場を貸してほしい、とお願いに来ました。事件とは関係ないだろうけど、ちょっと遠慮してくれと思いながら貸しましたが、そういうことに私たちは困惑しています。入れるだけではなく、公営住宅の大家さんは行政であることをもう一度再認識して、真摯に対応してください。

【野口都市整備局長】

今ほど大桑の市営住宅、外国人の方が20世帯ぐらい入居されている現状の中で、地域の方とのコミュニティをとることは非常に課題があると捉えています。大勢の多国籍の方が住んでいて、英語が標準的に通じるとはいえ、やはりその方に市営住宅に住むためのマナーをまず知っていただくのが大事かと思います。これは私どもが最初に十分に説明すべきことだと思っています。

新たに入居される方には、ごみ出しのマナーとか、いろんな町会の加入のルール等について、外国語版リーフレットで説明していますが、それが不十分であれば、改めて私ども市職員から説明させていただきたいと思います。

それから、もし緊急的にコミュニケーションをとらなければいけない場合、臨機応変には難しいですが、国際交流課で外国語の堪能な職員もいますので、また活用できるように、私どもが間に入って対応してまいりたいと思います。

現状で外国人居住者との関係を十分に作っていくのは、地域の活性化、先ほども言いましたけど、若い方が増えることも大事ですが、住民の方自体が本当に仲良く、地域の住民として円滑にコミュニティが図れることが大事だと思いますので、またいろんなご相談事がありましたら、市営住宅課にご依頼ください。よろしくお願いたします。

【野口教育長】

私からも一言お話をさせてください。

私が校長時代に、大桑の団地に住む外国籍の方のお子さんをたくさんお預かりいたしました。イスラム圏も含めて、本当にたくさんの国の方々がいらっしゃったと思います。

イスラム圏の子供たちは非常に日本語が堪能でしたので問題はなかったのですが、一番苦労したのはフィリピンの子供たちでした。子供たち自身、日本語ができないし、英語もできない。現地の言葉しかできませんでしたので、どうしようかなと思いながら、国際交流財団にお願いして色々ご協力いただきました。

それから、保護者の方と対応する時にも英語が大事だなと改めて思ったわけですが、英語の堪能な教員もいましたので、その先生になるべく多くの子供を持っていただき対応をさせていただいています。

2日ほど前にもNHKの特別番組が放映されていた中で、非常に増えている外国籍の子への対応のことが出ていました。

基本的に金沢の外国籍の子供については、今、泉小学校、泉中学校に日本語教室がありますので、そちらで学んでいただいています。先生方と色々協議しながら、非常に課題もある、と。たとえば週2時間ほど指導すればもっと上手になるけど、今、どうしても人数の制限で1人1時間しかできない、とか色々聞いていますので、先生の配置については県にお願いしないといけないものですから、それも含めて今後も対応してまいりたいと思っています。

大桑の団地の大変さは私も重々に理解していますので、今後しっかりと対応させていただきます。

【山野金沢市長】

大桑の市営住宅の話で、8カ国、20世帯ということをお聞きしまして、びっくりしました。たくさんの方がお越しいただいて、たくさんのコミュニケーションをとれること、

それはすごくいいことだと思います。学校は今、教育長が話したように、子供たちにいろんな言葉もそうですが、金沢のこと、石川県のこと、日本のことを学んでいただくことはすごく大切だと思っています。

ただ、コミュニティをとっていくために意思疎通の段階で既に課題があるのは、すごく大きい問題だと思います。今、金沢大学も、また他の大学も、留学生を増やしていく意向であることをお聞きしていますし、私はその方向性としては良いと思っています。

今ご意見いただいたように、市営住宅の大家として、市営住宅を管理する市として、問題意識を再認識して、担当部署、恐らくこれは金沢市だけで対応できる問題ではないと思います。県の話もしましたが、金沢市がまず一義的に責任を持っていきながら、関係部署とも連携しながら、地域の方たちも留学生やご家族の方たちも少しでも安心してお住まいできる体制をとっていけるように、問題意識をしっかりと持って取り組んでいきます。

【弥生町会連合会】

先ほど多言語のリーフレットを外国の方にお渡ししている、というお話でしたが、多分、リーフレットを渡されただけでは理解できないでしょうし、それをどうしても守らなければいけない、とは考えてもらえないのではないかと思います。やはり日本人と、外国人とでは、「公」の考え方で違う部分が出てくると思うので、リーフレットを渡したから分かるでしょう、というのは恐らく無理だと思います。この場合はこうする、ということの一つ一つ説明しながら、もしそれでも違っている場合には、本当はこうではないのです、と説明しなければいけないと思うので、そこをうまくやっていける方法を考えていくべきではないかと思いました。

【野口都市整備局長】

今ほどご指摘のとおり、外国人の方は文化とか意識、習慣が異なるわけで、リーフレットを渡すだけではなかなか伝わらないと思います。そのことを重く几帳面に捉える日本人と感覚が違うところがあると思います。

私どもも渡すだけではなくて、丁寧に説明することが大事だと思いますが、その後、やはり理解されていない、という話があれば直接出向いてもう一度指導する、ということをやっていくべきだと思います。

現実にはそのようにやっていますが、不十分な点があるのかもしれないので、地域の

方と情報を共有しながら、問題点があれば言っていただければ私どもで対応していきたいと思っています。

【弥生町会連合会】

2つほどあるんですが、福祉局長からいろんな相談事をひとまとめにする窓口、というお話が出ましたが、厳しい家庭状況の中で、たとえば母子家庭でしたら、働くこと、自分の生活を守ることが精一杯です。日中、市役所へ相談に行くことも厳しいですし、まずどこに行くのかわからないので、一つの相談窓口を作っていただくのは非常にありがたいのですが、これは体験談からの希望ですが、たとえば土日や夜。夕方5時以降の夜とか、電話の受付だけでもいいので、働いている母親は日中相談に行くのが厳しいことを配慮していただき、何か考えていただければと思います。

もう一つ、学校において、不登校とかいろんな問題がありますが、心と学びの支援について、できれば学校全部に配置していただきたいです。心と学びの支援員の時間があまりにも短い。たとえば午前中で子供が帰されたり、行きたい時間に子供が行けないこともあります。この学校に行ったら支援員がいるのでうちの子は不登校を免れた、という声もあれば、うちの学校にはいなかったよ、ということもあったので、なるべく学校によって差が出ないように、希望としては全校に配置していただいて、なおかつ、なるべく1日中どの時間でも受け入れることが可能な体制を作っていただきたいと思います。

【太田福祉局長】

最初のご質問、福祉局関係の件ですが、相談窓口の拡充ということで、確かにお困りのひとり親の家庭であれば、当然お仕事がありますので、日中行きたくても行けない、という話はあるわけです。

これは一気に、とはなかなかいきませんが、先日、新聞にも掲載しました、児童扶養手当があります。今回は初めての取り組みで、8月7日の日曜日に窓口を開けることを試行させていただきたいと思っています。

当然、平日に来庁できない方へ周知をさせていただき、一人でも多くの方がその期限内に手続することで、スムーズに手当を受け取っていただけますので、状況を見ながら、できるものなら拡大も考えていきたいと思っています。

それから、一日中となると、これは人の手配、極めて難しい。ただ、今こういう時代

ですので、これはまだ研究になりますが、たとえばネットで相談を受け付けることができないか。また一方で匿名性ということがありますので、その辺も研究させていただければと思っています。

【野口教育長】

私からは心と学びの支援員についてお話をさせていただきます。

おっしゃったとおり、1日4時間、それから限られた学校での配置になっていますが、県の予算も使わせていただくことになりまして、これは一緒にしっかりと受けとめましたので、県とご要望させていただきながら、拡大できるように頑張っていきたいと思っています。

【十一屋校下町会連合会】

先ほど外国人の問題について、十一屋のアパートに女の子が入居しまして、ごみ捨てで違うものを捨てたんですよ。それで、色々と近所に聞きましたら、彼女は野田中学校の臨時講師だということで、直接彼女の家には行かずに中学校へ行きました。その後、その近所の人が、実は英語版のごみ出しのパンフレットがある、と出してきましたので、初めて知りました。

野田中へ行きましたら、日本語を話す英語の先生と、ネイティブランゲージの外国の女の子と2人いらっしゃいました。校長先生にも会いましたが、そこで片言で伝えて、パンフレットを見せたら“I'm sorry.”と言っていました。英語の話せる相手でさえこんな調子ですから、他国語の場合はものすごく大変だと思います。ですから、外国全てとはいかないでしょうが、市で通訳されたパンフレットといますか、地元の方が読んで渡せるものがあればいいかなと思いますので、これだけ多くの外国の方がいらっしゃったら、その対応もぜひお願いしたいと思います。

【野田リサイクル推進課長】

ごみ出しのパンフレットは現在4カ国語、英語、中国、韓国、ポルトガル語で作成していきまして、私ども分別指導係が定期的にごみステーションの指導等をしています。その中で外国人の方が来た時に、指導員は英語を話せませんが、ボディランゲージ、身振り手振りで伝えれば、ある程度理解はしていただけます。

ただ、先ほどのイスラムの方がいらっしゃいます。最近はベトナム系の方も相当増えて

きている。あとインドネシア。いろんな多言語が出てきます。ご事情を聞きながら、それに対応するパンフレット等を、経費的にすぐには対応できませんが、適宜、対応していきたいと思いますので、いろんな需要ありましたらご相談いただければと思います。

(4) 共通課題について討議

①共通課題「震災に強いまちづくり」（弥生、十一屋）

「共通課題の説明」及び「課題に対する市の方針等の説明」については、レジュメを参考願います。

【弥生町会連合会】

5カ所の災害時協力井戸ですが、今、お店とかお風呂屋さんとかにある井戸は2カ所を閉めているので、実際は3カ所になっています。

10年前に訪ねていった時は協力できますと言われましたが、これから先、その2カ所が残るのかどうかは不明になってきています。また、その災害時協力井戸から拠点避難場所まで水を運ぶのはものすごい労力が必要です。飲み水はペットボトルなどをどんどん送ることができるので確保できる。それはとてもよくわかりますが、私が提案させていただいたのは生活用水が欲しいということです。生活用水がないために、熊本地震の時にはノロウイルスなどの感染症が広がって大変な目に遭いました。その生活用水を確保したいので、防災井戸をもう一度考え直してほしいです。

それから、1,000リットルの応急給水槽が備蓄されるということですが、これはあくまでも飲料用にしかならないような量です。トイレ、お風呂、洗濯などの生活用水にはとても足りません。高齢化していくこともあって、ぜひその拠点避難場所の中で生活用水を確保する方法を考えてほしいです。

弥生の場合、今まであった防災井戸がなくなるということです。これはとてももったいない話です。今まであったものをなくして、より不便な拠点避難場所にするのは、あってはならないことだと思いますので、もう一度考え直していただきたいと思い、今日は提案させていただきました。

【弥生町会連合会】

今の件ですが、一度に1,000リットルの給水可能な応急給水槽の配備。1,000リットルと

いうのは多いと思われませんが、1トンです。大型タンクローリーの10分の1です。これが町民8,000名の方が飲んだり、生活用水に使った場合、何日もちますか。

それと、この容器に水を入れるために蛇口をひねってどれだけの時間がかかりますか。その辺をもうちょっとお考えいただいて、避難所には生活用水に必要な井戸が不可欠だと思います。

【中川危機管理監】

今ほどのお話、お答えさせていただきますが、災害対応という中で、自助、共助、公助があります。

皆様方をお願いするのは、もしもの災害に対して、3日分の飲料水や食料をぜひ備蓄していただき、災害時には避難場所に持って行っていただきたいということでございます。

応急に際して、当面はその備えでしのいでいただき、先ほどもお話しさせていただきましたが、水道管自体の耐震化がかなり進んでいるので、大規模な災害に際して、必ずしもそれが全部生き残るわけではありませんが、当時のものに比べればかなり改善されています。

また、いろんな災害時の協力協定で他都市との応援協定も結んでいる中で、いろんな都市から一、二日はかかるかもしれませんが、応援のための給水車も来ていただけるということです。

そういった状況等の中で、防災井戸については、あるに越したことはないですが、今のものをさらに拡大することは、今のところ考えていないことをご理解いただきたいと思います。

【十一屋校下町会連合会】

今、震災を受けた場合、知っているということと、できるということは大きな違いが出ると思います。私どもは、非常の場合は知識ではなく、経験。それがないとすぐ動けないような気がします。

また、災害は行政や町会関係、民生委員などの社会福祉関係者だけで対応するのは無理だと思いますし、住民にこのことを理解してもらうことが大切だと思います。

今言いましたように、私とか、町会の方、民生委員とか、社会福祉関係者も被災者になってしまうと全然動くことができません。いざ、災害に直面した場合、心理的に即座に対

応が難しいのは当たり前です。そうしたことから、震災に見舞われた時に備えての防災意識や防災訓練はまず自助を大きなテーマとして位置づけたものが必要かと思います。

よく「自助・共助・公助」という言葉がありますが、金沢市では自助でできることについて、どのような対策とか広報を行っているか、教えていただきたいと思っています。

【中川危機管理監】

ご指摘のところはもっともだと考えています。地震が発生した場合については自助・共助・公助の中で、まずは自助が最優先といいますか、第一義的に必要になってくると思っています。

金沢市は、当然、いろんな意味で行政として公助ということで働きかけていきますが、まずは自助ということが欠かせないと考えています。

金沢市とすれば、年間100回を超える防災出前講座の開催や防災訓練の実施、各校下、地区でのコミュニティ防災士の皆様方の計画的な育成を通じて、地震の揺れから身を守る咄嗟の安全行動に加えて、建物の耐震補強や家具の転倒防止を行っていただくことを啓発しています。

まずは自らを助け、その助かった命で困っている方々に手を差し伸べることで、自助が回って初めて共助が成り立つと考えています。

また、平成25年度からは地震が発生した時に咄嗟にとるべき3つの安全行動、しゃがむ、隠れる、じっとするというシェイクアウト訓練が金沢市を始め、全国的に展開されているということで、このような訓練についても自主防災組織を始めとして、保育園、幼稚園、小中学校の児童生徒にも広く参加をいただいています。

今後もその自助の大切さを事ある毎に働きかけていきたい、啓発に努めていきたいと考えています。

【弥生町会連合会】

たびたび申しわけありません。

自助という部分ですが、私が今考えているのは、頑張らなくてもできる備えを提案していくことです。たとえば今までは水を3日分備蓄しなさいとか、食料も長期間備蓄できるものを用意しなさいということを教わってきたと思いますが、賞味期限が切れてしまうと新しく買い直したり、準備することが難しいです。

そうではなくて、今家にあるもので備蓄できないか、を考えていく。たとえば危機管理課の藤谷さんに教えていただきましたが、御飯を炊く時に、ジュースとかお茶とかでも炊けるそうです。それから、ビールで即席ラーメンも作れるらしいです。どこの家にも、ジュースとかお茶とかビールは、水を備蓄するよりかは置いてあると思います。

水を備蓄しなくてもジュースがあれば御飯は炊ける、ラーメンは作れる、となりますし、食料についても根菜類、大根、ジャガイモ、タマネギ、ニンジンなどは、多分どの家にも、全部とは言いませんが、あると思いますし、長期保存できるものです。

だから、頑張らなくてもできる備えというものを考えていけたら、もっと大勢の人に自助という部分をわかってもらえると思います。

【中村町校下町会連合会】

今、ジュースとかビールとかいろいろ言われましたが、それは必ず炊けると思います。ただ、自分の体の血液に対しては非常に悪いです。水があるから自分の体がよくなる。だから、水の備蓄というのは非常に大事です。それを勘違いしてもらっては困る。

【中川危機管理監】

あくまで緊急的な措置ですので、ジュース類、その他喉の乾きを癒やす、もしくはインスタントラーメンや非常食を温めたりすることに緊急的に使う、という意味では大変有効かなと思っていますし、冒頭で言っていただきました、健康のためには純粋な水が必要なのも確かなことですので、その辺は臨機応変に対応していただければと思っています。

それらについては、防災の出前講座とか、色々な機会に投げかけていきたいと思っています。

(5) 市長まとめ

【山野金沢市長】

長時間ありがとうございました。

ご存じの方も多いかと思いますが、私は政治の世界に入る前に東京の民間会社でサラリーマンをしていました。まだ若い20代の頃から今も考え方は変わりませんが、やっぱりトレードオフで物事を考えていかなくちゃいけないと常に考えていました。

若い頃は営業の経験もそんなにない、知識もない。でも、体力はある。独身でしたから

時間もある。これは徹底的に誰よりも多く仕事を、時間を長くすることで経験を積んで実績を上げていくことをずっと考えて取り組んでいました。

政治の世界に入ってから、僕はやっぱりトレードオフ、便益性とコストを常に考えながら仕事をしなくちゃいけない、これは民間でも全く同じだ、と思っています。

先ほど防災井戸の話が出ました。僕はそのとおりだと思っています。ただ、現実に限られた時間であったり、予算であったり、マンパワーであったりする限りにおいて、まずは既存のものを活用するのは一義的だと思っています。コストの問題もありますから、近隣自治体や多くの自治体との連携体制を以前よりも充実させているところです。それとやっぱり便益性を考えなければいけません。

いや、既存のものはそうかもしれないが、何の便益性も担保できないとなったら、これはまた別のことを考えなければならない。常に限られた時間、限られた予算、限られたマンパワーと利便性とのバランスの中で政策を考えていくことが大切だと思っています。

弥生校下で防災時協力井戸が5つ、僕も5つとっていました。今地元の方にご指摘いただいたら、確かに5つあるが、もう2つは使えなくなっている、とのご指摘をいただきました。恥ずかしながら、僕は今初めて知りました。

今年度から、井戸二百幾つか市内にあります。飲むことができるものか、どのように活用できるものか改めて調査します。二百幾つもあると我々は認識していますが、今、実際に使えるものは幾つあって、そのうち飲料で使えるものはどれだけあるのか、どの場所にあるのか。使えるけれども、飲料に適するようにできないのか、まずは状況をきちんと把握していくことが大切だと思っています。近隣自治体との連携体制もより充実していますし、もっと充実していかなければいけないと思っています。

ただ、そのことによって担保できる利便性があると思います。利便性と、いや、それだけで十分賄い切れない、リスクがさらに大きくなるから、やはり防災井戸や別のことを、コストと時間をかけてでもやっていかなきゃいけない、という判断をしないといけない時期があるかと思いますので、まずは我々としては今ある施策を再確認して、そこで担保できる利便性を確認していきながら、今あるものだけでは十分想定される利便性が担保できないとなったら、次のことに踏み込んでいきたいと思っています。

ジュースやビールで御飯が炊けるということも、僕はやっぱりそれもトレードオフ、日常的にビールやジュースで食べるわけではありません。でも、あくまでも非常時にはそれを使用せざるを得ない、これもトレードオフの考え方の中で出てくる発想だと思っていますの

で、意外と身の回りの中で日常的には使わないけど、万が一の時には使えることを認識することも大切だと、今日皆さんの議論をお聞かせいただき、改めて思いました。

先ほど申し上げたように、4月、5月、まちづくりミーティングで私自身が説明させていただいて、昨日の婦人会の時にも申し上げました。最近、いつも同じことを言っています。今日もその同じことを言って終えたいと思います。

意見はありませんか。はい、とたくさんの方の前で手を挙げて発言するのは難しい、勇気が要ると思います。でも、これはどうなっている、確認したい、このことを市長の耳に、教育長の耳にきちんと伝えたい、ということもきっとあると思っています。

僕の自宅の住所も電話番号もファックス番号も完全にオープンにしています。ネットをされる方は、僕のブログも、フェイスブックも、ツイッターも、メールアドレスも完全にオープンにしていますので、手を挙げてなかなか言いづらい、市役所へ直接言うのも何となく気が張る、という方は、僕にご連絡いただいても結構です。

ただ、個別のこととか、数字的なことは僕よりも担当部署がはるかに詳しいので、いただいたものは、僕は見ました、という返事は必ずします。ただ、内容に対する答えは担当部署から答えさせていただくことはありますが、必ず見ましたという返事は僕が必ずしますので、発言して意見を言いづらかったという方は直接僕におっしゃっていただいても全く構いませんので、ぜひお待ちをしたいと思います。

と言いながら、自宅には家族もいますので、できれば電話、ファクスじゃなくて、手紙とかメールでいただければ大変嬉しいです。責任を持ってしっかりとお答えさせていただきたい。そのことを改めて皆さん方前で申し上げまして、私からの締めの挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。